

〔フレッシュ獣医師〕

NOSAI 岡山 生産獣医療支援センター
上総 亜由奈

はじめまして、今年の四月から新米獣医師として勉強中の上総（かずさ）です。

よく農家さんから、「なんで獣医さんになろうと思ったの？」と質問をいただきます。生まれてこのかた私の周りに獣医師の存在はなく、残念ながら持ち合わせの感動ストーリーもありません。答えは、「なんとなく獣医の勉強は面白そうで、獣医っていう仕事も面白そうだったから」。志のない獣医師のような気がして、いつも答えに窮してしまいます。

大学生も後半にさしかかり、ようやく学外実習や牛ひとすじの研究室生活を通して臨床獣医師に憧れを持ちはじめました。

私は、農家さんとお話する中で、「牧場経営をなんとか良くしたい」、「従業員（牛達）が気持ちよく働ける場所を作りたい」という思いが伝わってくる瞬間、俄然やる気が湧いてきます。実家は牛とは無縁の工業地帯にあり、小さな鉄工所を営んでいましたが数年前に廃業しました。分野は違いますが、昨今の厳しい経済状態の下でも代々と受け継がれている農家さんをみるたび感慨深いものがあり、獣医師として少しでもサポートしていければ良いと思う日々であり、それが牛の臨床獣医師を志した原点です。

一見のんびりと牧歌的な雰囲気に見える農業ですが、餌の管理、ミルクの管理、環境整備、牛の状態把握、牧場全体の経営など農家さんの仕事は多岐に渡り、一つでも歯車が狂えば経営が傾く程繊細な仕事だと日々感じています。

同様に、その場ですぐに様々な検査を行うことのできる犬猫の獣医師と違い、検査の前に何かを見極めなければならぬことの多い牛の獣医師も繊細かつ大胆です。その患畜を見つめる真剣な眼差しは格好よく、牛の動きや表情、飼育環境の変化を捉えます。また、直腸検査や手術は魔法の手のように思えました。しかし、その分観察力を養い、豊富な知識を持って診断しなければ良い治療はできません。つまり、獣医自身の質に関わる部分が多く、治療結果が悪ければなぜ悪かったのか、良ければもっと良い方法はなかったか？など、考えることは山積の刺激的な毎日です。そして、それを立証できる検査体制が比較的整っている今の診療所で、頭の中の想像と証拠が合致すべく訓練中です。

私は現在5人のベテラン獣医師に学びながら試行錯誤の毎日です。生意気にも先輩達より一つでも多くのことを見つけてやろうと躍起になりますが、知識・技術・経験ともにキリマンジャロ級でなかなか到達できず、最初は赤子のよう泣いてばかりでした（実際には凶太い神経が功を奏し涙一粒すら流していませんのでご安心下さい）。

今、よちよち歩きの手をひいて歩いて下さる先輩獣医師と、それを温かく見守ってくださる農家さんに感謝しつつ、それが信頼の眼差しに変わる時、私の新たな獣医師人生が開かれるのかも知れません。

